

宮澤賢治センター通信

(岩手大学内)

(題 字 / 金森由利子)

第 11 号

発行人

〒020-8551
盛岡市上田四丁目3番5号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 岡田幸助

目次

- 巻頭言 理事挨拶……………1
- 定例研究会の概要……………2~4
- 本の紹介・詩碑の紹介……………4
- 「ミニ・茶話会」便り……………5
- 賢治と音楽の会便り……………5・6
- 宮澤賢治記念短歌会報告……………7
- 特別寄稿……………8~10
- 会員投稿……………10
- 第4回宮澤賢治学生短歌大会報告……………11~14
- トピックス……………15
- 読者からの手紙……………16

巻頭言



「よーさん」に始まり、 最期の日は元「お蚕さん部屋」

宮澤賢治センター理事 鈴木幸一

もう何年も前になりますが、盛岡市材木町の光原社の展示品の中に「よーさん」の作文コピーを見つけてエキサイティングしていました。

賢治さんの小学3年次の作文「よーさん(養蚕の意味)」が、1906年(明治39年)の「岩手県第1回児童学芸学業成績調」に収められています。丁度そのころ、生糸類がわが国の輸出総額の約50%を占めていたため、カイコの飼育は身近な生活の中に浸透していたと思われま

す。そして、1933年(昭和8年)9月21日の彼の美しい最期は、かつてカイコを飼育していた2階の蚕室で、板の間一部に畳を敷いたところです。父の政次郎さんがきれいな離れを用意

したとのことですが、頑としてそちらへは移らなかつたそうです(畑山、1995)。

現在知られている賢治さんの最初の作品が「よーさん」であり、最期の日の部屋が「お蚕さん」を飼育していたということですので、岩手大学の応用昆虫学分野としては、何と因縁深いことと自由勝手に鼓舞されています。

当時の養蚕農家は、住居と蚕室を一体化し、屋根裏や2階を蚕室に利用しており、人の営みとお蚕さんが共生する生活様式でしたから、賢治さんの世界観に当てはまっていたと思えます。

そして、養蚕とカイコの二つのキーワードを糸口としつつ、賢治さんは21世紀になって初め

て理解されるという賢治研究家の見解も振り所にながら、応用昆虫学分野の現代的意義を次のように考えてみました。

人類が「養蚕」をスタートしたのは紀元前3千年ですから、5千年もの間カイコを飼育し続けてきました。その食餌作物が桑で、一部漢方薬として使用されてきましたが、桑の主要な目的は生糸生産のためであり、カイコの飼育のためにだけ栽培してきたのです。

ところが、21世紀に入ってからまったく新しい価値観が明らかにされることで、5千年間の桑の役割が人間の健康を支えるトップクラスの作物に変貌しようとしています。

桑の葉に含まれている糖尿病の予防効果がある糖吸収阻害剤

(イミノ糖の1種のDNM)、動脈硬化予防のための抗酸化作用物質、がん細胞の移動を阻止する物質の発見が相次いでいます。

また、アルツハイマー症やパーキンソン病に改善効果がある物質も報告されています。私どもの研究室では、免疫賦活物質とアンチエイジング物質を追いかけているところです。これらの学術的な研究成果の一方では、岩手県北上市更木地域の住民が「株式会社更木ふると興社」を設立し、桑産業を起しながらか「岩手発の桑食文化」を牽引しています。

さらに、福島県の棚倉町にある「東白農産企業組合」との共同研究においては、茨城・栃木・福島の県境にある八溝山から採取したハナサナギタケ(糸状菌の一種)をカイコの蛹で人工栽培することで収穫した冬虫夏草から抽出物を得て、それを老化したネズミに経口投与しました。

その結果、老化ネズミの海馬(脳の器官で、記憶や空間学習の統御)では老化現象の一つであるグリオーシス(神経膠症)が発生し記憶障害を起こしますが、カイコハナサナギタケの冬虫夏草抽出物を飲んだネズミの海馬からグリオーシスは消失し、しかも記憶の回復も確認されました(Tsushimaら、2010, Journal of Insect Biotechnology and Sericology 79巻, pp. 45-51)。

すなわち、私たちの研究グループは、ヒトの認知症を改善するような物質がカイコで栽培したハナサナギタケ冬虫夏草に含まれていると考え、その活性本体を必死に追いかけています。また、岩手医科大学の神経内科専門の高橋智先生とも共同研究を開始しています。

20世紀までは桑はカイコの餌として、21世紀からはヒトの健康を支える作物になり、さらにわが国の独自の生物資源であるカイコとハナサナギタケを組み合わせて、一寸したら高齢化社会の大きな課題となるヒトの脳機能を改善する物質の発見に結び付くかもしれません。この二つの岩手大学発の研究テーマが、もし近い将来養蚕イノベーションの起爆剤になるようであれば、それはそれは、賢

治さんの現代的意義にも通じる
かもしれない。

「よーさん」という作文から
も、最期の日の部屋からも、お
蚕さんたちの「カサカサカサ、
カサカサカサ」と桑葉を食べて
いる音が、賢治さんにはレクイ
エムのひとつとして聞こえてい
たかもしれない。

小学3年次の作文の全文です。

よーさんとは蚕をおくことで
あります。蚕には春蚕や夏蚕や
秋蚕などがあります。蚕のたね
がみからうまれたときはごく小
さくありますが、大きくなると
私どものゆびのくらひになりま
す。生まれたころには桑の葉を
こまききってくはせませんが、大
きくなるときらないで枝のまま
くわせます。蚕がまゆをつくる
とそのまゆの中でさなぎになり
ます。そのまゆからは生糸が出
ます。

岩手県稗貫郡花巻川口町豊澤町
三百三番戸 宮澤賢治

(岩手大学地域連携推進セン
ター長、農学部教授)

定例研究会の概要

第48回 11月26日(金)

▽会場 農学部1号会議室

▽講師 岩手県立博物館友の
会会長 赤澤 義昭氏

▽演題 「永訣の朝」を読む

▽司会 佐藤 竜一
参加者 20名。

はじめに

「小岩井農場」などで指摘さ
れるように、賢治の詩作は自ら
の動きにあわせ、つまり、同時
進行で対象や事象を心象化する
作品が多い。実は、それゆえに
その手法と展開による作品世界
は客観的事実と考えられがちで
あり、たとえば「永訣の朝」の
時空がそのまま賢治の年譜とし
て採用されたりもする。太宰治



赤澤義昭氏

の年譜に、彼の虚構としての作
品が採用された時期があったこ
とと同じである。

ここでは、「永訣の朝」は事
実を超え、計算された世界であ
り、妹トシへの哀惜と自らの信
仰の混乱を表出しなければなら
なかつた賢治の文学作品として
読みたいと思う。
(うまれでくるたて：)

「永訣の朝」を長年朗読して
きて、トシのこの発語がどうし
ても方言になりきれない違和感
をおぼえていた。
あるとき、(…こんどは)の
「は」の発音に原因があるので
は、と感じた。そこで、ここで
の「は」はhaではなくhaでは
ないのかと考えてみた。たとえ
ば、「おらhaやんた」や「今日
ha終わりだ」のhaである。
そこで、「春と修羅」をめぐる
と(うまれでくるたて…)はひ
らがな表記になっているが原稿
段階ではすべてローマ字書きで
(Unarede Kurutate Kondoha…)
とありKondohaはなKondoha
であった。(こんどha…)が賢
治の発音でありたしかに方言に
なりうるのである。

(あめゆじゆとちけんじや)

①以前、県外の研究者から
「けんじや…」は「賢治や」で
すね、と言われたことがある。
これは、ある著名な方々が「賢
治や」と解し出版していること
と、原稿では明らかに「…けん
じや」なのに『春と修羅』では
「…けんじや」となっているこ
とによる。賢治自注の「あめゆ
じや」とつてきてください」が見
過ごされているようである。

②(あめゆじゆとちてけん
じや)はなぜ四度のリフレイン
が必要なのか。実はここにこそ
トシの死を前にした賢治の慟哭
を表現する適切な構成があつた
というべきである。

(あめゆじゆ…)の一回目、ト
シの言葉は音としてのみ賢治に
投げかけられる。意味を構成す
る以前の音だけであるから賢治
自身に変化もなく動きもない。
二回目、ここでトシの言葉は
自分に行為を促していることに
気付く。だから、「このくらい
みぞれのなかに飛び出」すので
ある。

三回目、「あめゆじゆ」を依
頼することのトシの意図はなに
か。「わたくしをいつしやうあ
かるくするため」だと賢治はこ
こで理解する。では、「あかる
く」するとはどういうことか。
死にゆく妹の枕頭にあつて、何

もしてやれない、つまり、模索
しながらもトシのためにできな
いことこそ苦悩であるばかりで
なく、地獄の思いでもあつたは
ずである。何かをしてやれるこ
とこそ「救い」になりうる。ト
シは賢治を救おうとして「あめ
ゆじゆ」を頼んだのだ。結果、
「わたくしもまつすぐにすん
でいく」ことが可能なのである。
そして四回目、以上のことを
確認し賢治の慟哭は薄らぐ。

(Ora Orade Shitori egumo)
原稿段階で、なぜこのトシの
言葉だけがひらがな表記になら
なかつたのか。

考えてみれば、ここでもロー
マ字表記は音のみであり、意味
をもつ言葉として賢治は受け入
れられない。信じがたいこの意
味は、「あたしはあたしでひと
りいきます」というトシからの
一方的決別宣言にはかなならな
かつた。だから、「わたくしに
いつしよに行けとたのんでく
れ」(「松の針」と願う。

トシに対して「信仰を一つに
するたつたひとりのみちづれの
わたくし」(「無声慟哭」)の苦
悩は深い。それは、賢治自身が
学びえた信仰への揺らぎにさえ
なりかねない。

おわりに

高村光太郎「レモン哀歌」は
「永訣の朝」が下敷きとされ

る。作品の時は前者が過去形であり、後者は現在形である。この視点から両者を比較し分析すると、あらたな「永訣の朝」が見えてくるかもしれない。
(赤澤義昭 記)

第49回 12月9日(木)

▽会場 農学部2号館107号室

▽講師 宮澤賢治研究者

岡澤 敏男氏

▽演題 「不思議な都ペーリング市」考

▽司会 池田 成一

参加者 18名。

宮澤賢治の「ペーリング」という発想は大正12年4月に発表した童話「氷河鼠の毛皮」に初出するものでした。この発想が6月には「ペーリング市」となり、さらに翌年(大正13)11月には「不思議な都会、ペーリング市」へと進化しているのです。「ペーリング」に対する発想の変遷をたどると次に示す三つの要素が関連しているように見受けられます。この考察の本文は『ウルトラワラ』第29号(2008年5月・ウルトラワラの会発行)に発表されていますが、長文なので本通信には次のように要約させていただきます

す。
宮澤賢治におけるペーリング市の形成過程

■時局との関連

1917年(大正6) 11月2日

ソビエト政権成立(10月革命)

1918年(大正7) 8月2日

原内閣シベリア出兵宣言

1920年(大正9) 3月13日

ソビエトのバルチザン尼港(ニコライエフスク)の日本軍を武装解除する

5月25日

日本軍人・居留民を殺害「尼港事件」

7月3日

ロシア領北樺太へ出兵(保障占領)

童話「鳥の北斗七星」執筆

1922年(大正11) 6月24日

シベリア派遣軍撤退を声明

1922年(大正11) 12月12日

日本人の海賊船「大輝丸事件」

ロシア船襲撃殺人事件

1923年(大正12) 4月15日

童話「氷河鼠の毛皮」(岩手毎日新聞)発表

「ペーリング」行列車(ペーリング行最大急行)

☆地名「ペーリング」の初出

■妹トシとの関連

1922年(大正11) 11月27日

妹トシ死去

1923年(大正12) 1月4日

11日 上京

上野図書館にて「五行大義」により、北方至陰の宗廟を知る
4月15日

童話「氷河鼠の毛皮」発表
(「ペーリング」の初出)

6月3日

詩篇「風林」(トシの死後半

年ぶりに詩作再開)

6月4日

詩篇「白い鳥」

7月31日

青森・北海道・樺太へ旅立つ

8月1日

詩篇「青森挽歌」

8月4日

詩篇「オホーツク挽歌」

10月28日

詩篇「一本木野」(ペーリング市の発想を見る)

■海底考古学との関連

18世紀のペーリング

多くの学者によるアジア東北部と北西アメリカがかつては陸橋でつながっていたという仮説が出現



岡澤敏男氏

19世紀のペーリング
旧・新世界の動植物相の共通性が立証

20世紀のペーリング

1920年代にペーリング

の問題を論じた論文や著書が多く現れた

1924年(大正13) 12月1日

イーハトヴ童話「注文の多い料理店」出版

広告文のなかで「不思議な都会、ペーリング市を続く電柱の列」という発想を見受ける。

(岡澤敏男 記)

第50回 2月4日(金)

▽会場 農学部1号会議室

▽講師 産総研フェロー・地質調査総合センター代表

加藤 碩一氏

▽演題 「宮澤賢治の地的背景ーアジア・西域篇」

▽司会 岡田 幸助

参加者 22名。

1. はじめに

賢治作品の中でも異色の地位を占める「西域もの」と称される作品群があります。すなわち、(一)西域・「三人兄弟の医者」と北守將軍、「北守將軍と三人兄弟の医者」(みあげた)(断簡)「雁の童子」、(二)西藏・「ひかりの素足」「ペンネンネン

ンネンネン、ネネムの伝記」(峯や谷は)「マグノリアの木」(三)印度・「インドラの網」(四)又の百合「十力の金剛石」「学者アラムハラドの見た着物」「オツベルと象」竜と詩人「手紙 一、二」「二十六夜」、(四)中近東・「研師と園丁」「チュウリップの幻術」「ひのきとひなげし」などです。西域は狭義には、「中央アジアの北は天山山脈、南は崑崙山脈に挟まれたタリム盆地とその周辺」ですが、明治大正期の賢治の時代にはかなり漠然とした中国の西方辺境に位置する広大な地域を示しており、賢治の理解もこのようだったでしょう。さて、賢治が知っていたであろうそれら作品世界の「地的背景」(地理的・地質学的背景)、言い換えれば明治大正時代にアジア・西域の地理・文化情報がどのように日本に受容され、賢治が知りえたのかを探ってみましょう。金子(1988)は、「賢治は科学者だったので、一応はちゃんとした理由や事実を知った上で、空想や脚色をして作品を書く習慣がついていた。よいテキストを直接見て素材にしたからであつたらう」「彼に影響を与えたはずのものをできたら一度洗い直し、さぐってみることも無駄ではないような気がす

る」と述べています。それでは、「よいテキスト」とは何でしょうか。結論的にいえばまず、賢治が知ることのできた当時の西域を含むアジアの地理情報は『地学雑誌』『地質学雑誌』、特に『地学論叢』第四号『ヘディン号』によるところがきわめて大きいと思われます。

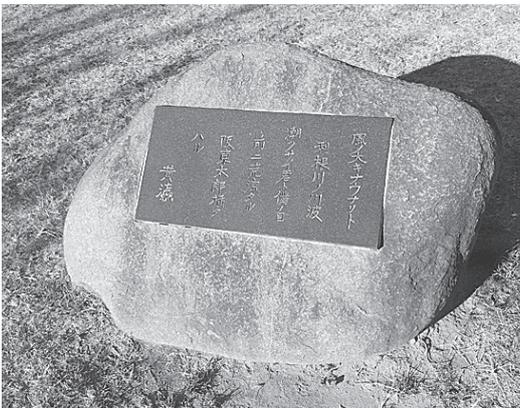
中央アジア探検の第一人者といえるスウェーデンの地理学者・探検家であったスウェン・ヘディンは、1894～1908年にわたって三回実施した中央アジア探検で大きな成果を挙げました。第三回の探検でトランス・ヒマラヤを発見命名した帰国の途次、日本に招聘されました。ヘディンの日本の講演は、東京地学協會編纂(1909)『地学論叢』第四輯『ヘディン号』として、大日本圖書株式會社から一般向けに出版されました。賢治が本書を購入して読んだ直接的な証拠はありませんが、入手困難な原書よりも日本語で書かれた本書に目を通した可能性は高いと思われる。作品中には『装景手記手帳』に、「毘」沙門天の宝蔵である／trans Himalayaの高原の住民たちが考へる…「髪」をみだした／かつましゅら天である／[Sve] n. Hedinの空想して「？」の名与ある／著述



加藤碩一氏

のなかに「そ」のたわむれの／スケッチを／いろどりを／か、げてゐる」とあります。「氷質の冗談」には、「青くかゞやく天の腕から／ねむや鷺鳥の花も胸毛も降つてゐました：あの妖質のみづうみが／ざらざらひかつてよんだのです」とあります。「ねむの花(はなびら)」が降つてくるというのは無理のない描写ですが、「鷺鳥の胸毛も降ってくる」というのはどういう意味でしょうか。『ヘディン号』に「又インド人等の間の言い伝えにも、此の山(筆者注・カイラス山)の頂上の極楽界はシバの神の住家であつて、彼等が時に鷺鳥に姿を変へて山を下り、湖水の面に遊ぶことを屢々見懸くるなど云うて居る」という記述があり水解します。賢治はこれを知つていて作品に取り入れたのでしょうか。(加藤碩一 記)

詩碑の紹介



黄瀛の詩碑

(銚子市中央みどり公園内、岡田幸助撮影)

宮沢賢治の詩友に、黄瀛(こうえい、1906-2005)という中国人がいる。草野心平が主宰した詩誌『銅鑼』の同人となった黄瀛は、『銅鑼』を介して賢治と知り合った。1929年6月、陸軍士官学校の卒業旅行で花巻温泉を訪ねた際、黄瀛は人力車を飛ばして賢治の家を訪ねている。

千葉県銚子市には、日本で唯一の詩碑がある。詩友である関谷祐規と共に銚子を訪れた際に作った詩「銚子ニテ」の一部が刻まれている。2000年7月9日、この詩碑の除幕式に私は出席した。

(佐藤竜一 記)

◆本の紹介

この事典は「賢治ワールド」を旅するエンサイクロペディア」と称し、宮澤賢治の全体像を提示しています。天文・気象・地学・動植物などの自然科学、宗教・哲学・博物学などの学芸、賢治の生活や作品世界を支える世界観、時代背景や交流のあった人物など、総合的な視点で賢治の世界に迫っています。事項索引、人名・著作索引なども充実して、賢治に関して何か調べたいとき役に立つ情報が満載されています。

150人に及ぶ人々がそれぞれの専門分野について執筆



『宮澤賢治イーハトヴ学事典』
天沢退二郎・金子務・鈴木貞美=編集委員
A5判上製 712ページ
定価 14,700円(税込み)
2010年12月刊
発行所：(株)弘文堂
(TEL 03-3294-4801,
http://www.koubundou.co.jp)

しているのですが、岩手県の出身者や在住者では阿部弥之、牛崎敏哉、大野真男、岡澤敏男、小川達雄、亀井茂、斎藤環、斎藤文一、佐藤通雅、佐藤竜一、原子内貢、宮澤明裕、望月善次、森三紗、山本昭彦、吉見正信の各氏が執筆しています(漏れがあったらご容赦下さい)。

読んで楽しく、本書をひもとくことで多面的な賢治象に出会うことができるはず。個人で買うには少し高すぎるのが難点ですが、それだけの価値はあります。賢治好きな人にぜひおすすめしたい事典です。

(佐藤竜一 記)

「ミニ茶話会」便り ——一茶一話——

「宮澤賢治センター通信」では「ミニ茶話会」での様子を毎回載せて頂いております。今回もその様子の一端を紹介させていただきます。

11月26日茶話会は姉齒さんが不在だったので岡田が司会をつとめることになった。それにしても毎回、小菅さんがちゃんとお茶とお菓子そしてビールを用意してくださるのには頭が下がります。今回の赤澤さんの深い内容のお話に一同身のしまる気持ちがあった。詩の中には虚と実があること、「こんどは」の「は」は「は」ではなく「ha」と発音すること、「あめゆじゆとてちてけんじや」も「ototechikenja」と発音すること、Ora Orade Shitori egumo がなぜローマ字表記なのか、などの解説には、目からウロコが落ちる思いであった。この会のためにわざわざ横浜から来てくださった女性もいらして、話は大変盛り上がった。最後には石原黎子さんの心のこもった朗読で締めくくり、感動のうちに散会した。

(岡田幸助 記)

○「不思議な都ペーリング市」のタイトルは賢治さんの童話「水河鼠の毛皮」の箇所が初出ではないかとの事で、その物語の背景には当時の「大輝丸事件」が考えられるとの事でした。この童話はその時代の日本の事件・情勢またその解決等の考えを底流に書いたものではないかという事でした。賢治さんがつむいだ想像だけの童話ではない、歴史を秘めた物語である事を改めて教えられた思いでした。特にその設定の「ペーリング市」は地球の創世以来の第3紀始新世紀から中新世紀の間の氷河・寒冷期の陸地のあり方も読めることは楽しい指摘でした。その中で賢治さんは北方に神聖な箇所(陰陽五行説から宗廟祭祀の宗廟)やトシのいる死の世界を想い描いているとの指摘です。

私はここで賢治さんの人に優れた感性の鋭さは、表層意識から深層意識へ即ち唯識論で言えば六識(眼識、耳識、舌識、鼻識、身識、意識)から末那識、阿頼耶識等の無意識の中に人類史の流れを感じ取り、それを読んでいたのではないかと、想像をたくましくしております。

人類の歴史を尋ねると10万年前とも15万年前とも言われていますが、アフリカの大地溝帯で、新人が誕生し、そこから新

人が世界中に広がり、その一つのコースが中近東を経て、中国北方へ出て、一方はそのまま東方即ち「ペーリング大陸」を通りアラスカ、北米、そして南米にいくコースと、もう一方はそこから南下して日本に入ってきたのが日本人の先祖というのが現在の定説のようです(しかし、最近一部は南方から北上したとの見解も遺伝子の解析、特にY染色体の解析からそのような説が語られ始めております)。

賢治さんの生命の底流にはその北方から入ってきたという日本人は縄文人であり、その源流の人類史を無意識に感じ、生命の始めと終わりを北方に求めているのではないかと思ったりしています。講師との話題は岩手山の話から小岩井の話になり、講師の専門的研究の小岩井の話で開きになり楽しい一時



茶話会のもよう

でした。

○「宮澤賢治の地的背景—アジア・西域篇—」もまた新しい展開を受けた興味ひかれる定例研究会であり茶話会でした。賢治さんの作品の中に数多くの西域の作品(北守將軍と三人兄弟の医者等)があります。賢治さんが西域に興味を持ったのは、仏教が通った道であったからと金子は言っていますが、その説に大いに賛同します。しかしまたその地的背景をどのようにして知り得たのか、それらの作品に金子は「大粹極めて精通している」と語り、それらは何処から知ることが出来たかを探る定例研究会でした。

西域と言えばスウェン・ヘデンの「中央アジア探検記」が有名ですが、その中でも賢治さんが目を通した物は東京地学協会編纂の「地学論叢第四輯」の「ヘディン号」であったのではないかとのことでした。その後話題は賢治さんと「地学雑誌」「地質学雑誌」(これらは岩手大学にあり、保存は全国的にも素晴らしい物だそうです)そして、「金石学」と「岩石学」、また賢治さんの作成した地質図、青色・緑色・黄色・黒色・赤色・紫色・白色等の鉱物の種類、古生物・化石、イギリス海岸、種山ヶ原、台川、早池峰山、岩手山、小岩

賢治と音楽の会便り

井農場等々話題はどんどん広がり、講師の博識とあわせて賢治さんの作品はどれも当時の科学として正しい捉え方の上で、創造性豊かに描いているとの事にただ圧倒される思いでした。

(姉齒武司 記)

○賢治さんが「聴いた」と言われる曲を中心に聴き始めてまもなく3年を迎えます。聴き始めてから思う事は、賢治さんの聴いた作品のあとを辿るほど、作曲家や作品の多さに、当時の岩手という地域性やレコード環境からは、限界を越えているのではと思われるような大変な先駆性と幅の広さに一頻り感嘆の思いを禁じえません。もし賢治さんが現代に生きていたとすれば、クラシックからジャズ、ロック、フュージョン等々これほど多種多様な西洋音楽から、邦楽まで幅広い音楽がある中で、鑑賞や作曲等どのような音楽活動をしていった事だろうと思えます。大変な音楽評論家だったのかもしれないし、作曲家としても名をなしていたのかもしれない。文学者としては勿論科学者として、農業指導者、宗教者、教育者としてもどんなに活躍さ



れたのか、どれでも一流だったのではとの思いであります。また、この場に賢治さんが一緒されていたらどういう感想を語るのかと思いつつ「賢治と音楽を楽しむ会」を開催しております。

○ 先日、脳機能学者がクラシック音楽の音の揺らぎは聴く者を心地良くさせ、脳を効果的に刺激して脳内ドーパミンを放出し、潜在能力を目覚めさせると語っております。そして、また、ストレスを解消し、記憶力を高め、自己実現の力となる」とも語って居りました。特に部屋の空間の共鳴が、クラシックの倍音効果を高め、その体感が脳に良く作用するとの指摘もあり、この乾燥した木造の百年記念館での共鳴作用はその指摘に

ぴったりあてはまる会場と思えます。

○ 今回はブラームスの「交響曲第4番」を聴きました。この曲はブラームスの最後の交響曲で悲劇的曲想をもっており、交響曲という形式の曲はベートーベンで完成され、それを越える作曲家はもう出ないと言う人もおります。しかし、ブラームスはベートーベンを越える作品を目指し、「交響曲第1番」の作曲を始めてから発表するまで何と21年間を費やした事には有名です。当時の名指揮者のリヒターが、ベートーベンの第10番」と言った事は有名です。また、「交響曲」という形式を大事にした作曲者で推敲に次ぐ推敲を重ねるタイプで、後に「背後にベートーベンの足音を聞きながら」作曲したと語っております。

また、参加者からの希望でロッシニーの歌劇「ウイリアム・テル」序曲を聞きました。これは4部からなり順に、夜明け、嵐と独立の闘士の戦い、平和な牧歌、軍隊の行進曲と民衆の喜びを表しておるといわれております。

○ また、ブラームスがこの曲の大成功で作曲者として不動の地位を築いたと言われる「ドイツレクイエム」を聴きました。

但し、大曲で7楽章・3部構成になる為、今回は第1部のみ鑑賞しました。そして賢治さんが聴いたと言われるヨハンシュトラウスの「ウィーンの森の物語」に加え、1月ニューイヤークンサートの意味を踏まえ「皇帝円舞曲」と「美しき青きドナウ」も聴きました。

○ また、「ドイツレクイエム」を聴いた際、他の作曲者の「レクイエム」を聴きたいとのリクエストがあり、今回はモーツァルトの「レクイエム」を聴く事になりましたが、この曲の極みとも言える第3曲目の最後になる「ラクリモサ」を聴きました。この曲はモーツァルトの最後の曲であり、死後弟子のジュースマイヤが途中から作曲した物と言われており、全曲を聴くのは後の機会にする事になりました。

賢治さんはモーツァルトの「交響曲39番」を聴いたと言われておりますが、今回は「セレナーデ第13番」(アイネ・クライン・ナハト・ムジーク)と「ピアノ協奏曲第21番」を聴きました。そして順次ピアノ協奏曲を聴いていく事になりました。

尚、毎回イ・ムジチの演奏による童謡の「日本の四季」を聴いて日本の旋律の作品との違いを聴いております。

○ 月に一度一時間半程、何かにと忙しい毎日の中で、他に何も気にかけて音楽に浸る時間を取る事も「聴く」感性を育む意味で大事な事と思っております。

どうか「賢治と音楽を楽しむ会」に参加され共に楽しまれますようお願いしております。

(姉齒武司 記)

ここで参加者の榎原さんからの歌の歌詞の一部を使った雑感を寄稿頂きましたので掲載します。

榎原 幹雄 (名古屋在住)
 春は名のみ風の寒さよ。暦の上では、もう春であるが、まだまだ寒い日が続く。私はあまり雪のない地方でくらしているせいかな、雪は天からの贈り物、美しいもの、楽しいものである。雪の降る夜は楽しいベチカ。ベチカ燃えろよお話ししましょ。また雪の積もった林をきしきしと歩くのもほんとに楽しい。しかしながら雪国の人にとっては、そんなのなきなこと。は言ってはおれない。今日も昨日も降り積む雪に、谷の鷺声もなし。友よ辛かる切なかる。日はとつぷりと暮れの町、コンと狐がなきやせぬか。どうすりゃ良いのよこの私。どこまで

続く冬の旅。私の宿はどこにある。どういふ訳か七五調。むしろ 春へのあこがれ が本音だらう。

北国の春は、いろいろな花々が一せいに咲きます。そうすると、自然も人びとも喜びあふれる麗しき季節となる。キャンパスの水溶け去り、緑は芽吹き、花々が咲きはじめると、ほんとに心豊かで幸せな気分になる。裁判所前の石割ざくらが咲けば、生きる勇気がわいてくる。あらたな希望が復活して来る。レクイエムよさらば。青い山脈やら歓喜の歌が聞こえる気がする。さあ川の岸辺を歩こう。城へ登ってみよう。小岩井農場あたりを散策しよう。などとポジティブな気になる。



特別寄稿

イーハトーブ温泉学拾遺——
大沢温泉

法政大学国際文化学部教授 岡村 民夫

二〇〇八年七月にみず書房から『イーハトーブ温泉学』を上梓したのちも、私はいろいろ関連する考証を未練がましくつづけている。願わくば『相補改訂・イーハトーブ温泉学』を出したいところだが、なかなか叶いそうにないので、ここに大沢温泉に関する補説を記しておく。

一九一〇年（明治四十三）八月下旬、盛岡中学二年生の宮澤賢治は夏休み中の一週間ほどを地元の大沢温泉で過ごした。浴場のそばに源泉を汲み揚げる動力の水車と、湯が熱すぎる場合にうめる山清水を流す樋が存在したが、樋は留め金がかかけられ、久しく使用されていなかった。賢治はその留め金をはずし、「湯坪」を小石や蛇の抜け殻混じりの「水坪」に変えてしまったのである。

賢治が同級生へ出した手紙（九月十九日 藤原慶次郎あて）によって知られている滑稽なエピソードだが、大沢温泉へ泊まった賢治ファンは、たいいてい舞台を、大沢温泉名物の露天風呂「大沢の湯」（旧名大湯）

と思うことだろう。私も『イーハトーブ温泉学』に取り組みまでそう思っていた。けれども手紙を注意深く読むと、露天風呂での出来事ではないということがわかる。翌々日、賢治は「曾ってクラスメートであったやつら五六人の気が食はるので竜ど水（「竜吐水」）で水をその浴室から出て来るのに山の上から水をぶっかけた」（原文ママ）という。つまり、問題の浴場は露天風呂でもなければ内湯でもなく、旅館の離れの「浴室」だったのだ。しかも「巡査君湯主と共に男女混浴はいかんなんて叱ってゐる上から水が、そら熱いとき上から落つるやうになつてゐるとひから三尺立方というやつがどんどろ落つる」と彼が述べている点からすると、打たせ湯の方式で湯を浴槽へ注いでいたと考えられる。

そこで私は『イーハトーブ温泉学』執筆に際し、大沢温泉の古資料を渉猟した。『岩手県誌 泉誌内 志戸平 大沢 鉛 西鉛』（一八九五）のなかに、かつて湯主・久保田平造が川岸の水車で源泉を汲み揚げ「湯壺に

送り滝となる乃器械」を工夫したという記述と、それらしき水車と小屋が描き込まれた菊池黙堂筆「大沢温泉場之図（図1）」、そして川岸の小屋が右端に描かれた「大沢温泉場隔川望西方之図」が見つかった。総合的に考えれば、小屋は曲橋より川下、菊水館に向かって斜め右下の豊沢川左岸に建っていたことになる。

しかし、こんにちそこには裝飾の水車が設置されているだけだ。また賢治の悪戯は、『岩手県誌 泉誌内 志戸平 大沢 鉛 西鉛』の刊行から一五年もあとの出来事だ。そして、私が岩手県立図書館で閲覧した「陸中大沢温泉（花巻駅ヨリ電車ノ便アリ）（藤田屋発行）」という

キャプションの古絵葉書では、樋らしきものと連結した別の小屋が右岸に見える点も気になる。そこで『イーハトーブ温泉学』では、「さらに考証が必要である」（三四頁）としめくり、浴場の特定を保留したのだった。

二〇〇八年八月、私はあらためて大沢温泉の現地調査をした。高田貞一社長に問題の箇所を泉源が合ったのか尋ねてみたところ、確かにそこに古



図1 大沢温泉場之図



図2 大沢温泉 川向滝ノ湯

い泉源が存在するという。賢治が悪戯した浴場はやはり菊池黙堂の図に描かれた左岸の小屋の方だったのだろう、と思った。そして最近、ついに私は決定的な絵葉書を手に入れた。大沢温泉を貫流する豊沢川の川下から川上を撮った写真であり、奥に曲橋が見える（図2）。画面の右手前、菊水館の下の川岸に、菊池黙堂の絵のとおり樋とつながった小屋が写っている。だが、りでない。「大沢温泉 川向滝ノ湯（花巻ヨリ電車ノ便アリ）（鳥畑写真館発行）」というキャプションが入っている。この小屋こそ、宮澤賢治が一九一〇年に泥水を流し込んだ浴室である。絵葉書の年代は不詳だが、大正中期に建った洋館風の「大

沢温泉大浴場」（現存せず）が対岸に建っている。かくして連鎖的に判明したことがもうひとつある。なんと宮澤賢治の写真の背景にもこの「滝の湯」が写っていたのだ。一九一四年（大正三）頃の夏期仏教講習会のおりの記念写真だ（『新校本宮澤賢治全集』第十六巻下、二八三頁）。曲橋の川上のたもと、巨岩の上に、盛岡高等農林一年生の賢治を含む参加者が集合している。一団の左背景に小さくかいま見える切妻が、たまたまいと位置関係から「滝の湯」と判断できる。いままさに入り口から浴室へ入ろうとしている浴衣姿の客まで写っているではないか。

特別寄稿

日常の賢治さん

岩手県芸術文化協会副会長

齋藤 五郎

花巻の人達は宮沢賢治を日常的に「賢治さん」と呼んでいま

す。これは花巻の人達が子供の頃から、童話や雨ニモマケズでなじんでいる宮沢賢治はうちの町の人、同じ郷土の人、といった親近感が自然にさん付けで呼ぶようになったのでしようが、そう呼ぶ雰囲気にとってもきれいなニュアンスもあって、実にいい感じでいつも羨ましく思っています。

その花巻の友人に「最近の賢治さんは堅苦しい」といわれ、ウーン言われてみればそうかなあと、私なりの賢治さんを思い起こしました。

私が賢治さんを知ることになったのは、私というより日本中の人たちが、賢治さんを知ることになるのは昭和15（1940）年の映画「風の又三郎」からです。

文部省推薦のこの映画を学校動員で観て、「ドッドド、ドドウド、ドドウド甘いりんごを吹っ飛ばせ、酸っぱいりんごも吹っ飛ばせ…」とか「あんまり川を濁すなよ、いつでも先生いうではないか…」などと、映画

の中のせりふや歌で騒いで遊んだことでした。

そんなことから、学芸会は学校の図書室の本棚に、アンデルセン童話集やグリム童話集と一緒に並んでいる宮沢賢治童話集から、低学年は「雨ニモマケズ」の朗読で、高学年は童話集から選んで先生が台本化してのお芝居と賢治さんの作品ラッシュです。私の役は「グスコブドリ

の伝記」で、ボール紙に描いて切り抜いた樹木をうしろで支えている立木でした。

何を申し上げたいのかといいますと、賢治さんの没年は昭和8（1933）年ですから、今までのお話は今から70年ほども前のことになりました。没年数年にして、世界童話全集に納められ、小学生にも愛読されるぐらいに、この時代で既に私達の身近かな、日常の賢治さんだったということが、花巻の人達の賢治さんと呼ぶ流れになっっているのだと思います。

映画「風の又三郎」には後日談があります。賢治さんの生誕百周年の頃には、記念行事に向

けているいろいろな事が企画されました。

それでテレビ局が百周年に先だって、「風の又三郎」のリバイバル上映会を開催したのですが、この上映会の為にゲストで東京からお出でになっていた「風の又三郎」で主演の子役の一人であった大泉晃さんが、ステージで挨拶して楽屋に退がると、岩手県庁の部課長クラスの方が三人で「その節は」と大泉さんと握手です。

このお三人は花巻の方で、小学生の時「風の又三郎」のエキストラで、川に飛び込んだり、泳いだりで大活躍だったので泳いで観たら、飛び込んだ私が水中から顔を上げると大泉さんになっていたとか、又三郎の片山明彦さんでしたとの思い出話に華が咲いていました。

やっぱりと、花巻の人達が賢治さんと呼ぶ歴史と親しみの深さを改めて認識したことでした。そんな中で、今や宮沢賢治も全国的に評価されてなどと講演された、中央からの先生がおられました。中央の先生方の賢治さんの認識はその程度かと思っただけもありました。

同じ中央の方でも、長岡輝子さんは、幼児期を盛岡で育ったということもあってか、賢治さんをお兄さんという程の大ファン

ンでした。晩年は、賢治さんの作品の朗読をライフワークとして全国ネットで語られているのですが、その長岡さんが話しておられましたことに、私はことにあたって、人間でも自然でも、賢治さんならどう感じ、どう思い、どう考えたらうと、賢治さんと同じ思考に入りたいと、いつもそのように努めていますのよとのことでした。

長岡さんの朗読についてとてもいいエピソードがあります。永六輔さんのお話です。永さんは馬場勝彦さんと親交が深く、よく盛岡に来ておられました。が、その時にお伺いしたことです（なお、馬場勝彦さんにつきましては、秋山ちえ子さんが宮沢賢治を生きた人」と評しておられますように、語れば長いことですので、ここでは割愛させていただきます）。

実は「雨ニモマケズ」を、新劇などの俳優さん達の立て板に水の、すばらしいきれいな口調の朗読で聞いて、何と気障（きざ）な気取った嫌な詩だと思っていたのですが、ある日、長岡輝子さんの肉声で「雨ニモマケズ風ニモマケズ」と聞き終わって途端に、暫し呆然すっかり感動、それ以来「雨ニモマケズ」は私の人生の指針となり、すっかり賢治さんファンに変貌しま

した、という永さんの貴重なお話でした。

賢治さんの童話はアニメや実写で、劇場映画やテレビ映画にたくさん制作されていますが、賢治さん自身をテーマにした劇映画が二社で競作された時は、雨ニモマケズが日本中でなにもなく、鼻歌のように口ずさむことになりました。映画の方言指導で畑中美耶子さんが数か月も京都に行き来しての撮影現場の情報も楽しみなことでした。

数多くの映画作品で賢治さんは日本の賢治さんになりましたが、賢治さんの知名度を高めた中興の粗粒「賢治の宝石箱」の著者板谷英紀さんは、賢治さんは喜劇芝居が好きで、花巻から盛岡劇場に通って関西喜劇の曾我迺家五郎一座などをよく観ていたし、それが賢治さんの童話のルーツにもつながっていると話されて、曾我迺家一座の芝居台本を古書店で探し歩いたこともありました。

盛岡劇場といえは、賢治さんが芝居見物の後、学友と食事をして小遣い銭を使ってしまい、交通不便の大正期、盛岡から花巻まで夜通し歩いて帰ったという逸話があり、賢治さんの生誕百年を記念して、との事ですが、その時の盛劇の館長太田幸夫さんが、賢治さんと同じに

下駄ばきで夜中に花巻まで歩いたのでした。賢治さんの母校旧農専である岩大農学部の後輩でもあるという自負心からの快拳か、拍手でした。

演劇といえは、その頃井上ひさしさんを会長として、賢治さんと啄木（洪民でも盛岡でも、今まで啄木のさん付けを聞いたことがありません。原敬の原さん、米内光政の米内さんは盛岡でも日常なのに、啄木も分析すれば面白いと思いますが、長くなりますので省略）をテーマに日本劇作家大会が開かれました。

その閉会式で、地元代表の挨拶の人が、盛劇の舞台から客席において、役員が居並んでいる舞台に向かって「賢治さん、啄木さん、この度はいろいろ利用させて頂きました、舞台で右往左往させましたことを深くお詫びいたし、お世話になりましたことに厚く御礼申し上げます。いつかはたぶん、賢治神社、啄木神社を祭祀して、長くまつり上げることになると思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます」で、客席がわっと湧きました。井上ひさしさんが「参りました。地方にはこういう方がいるからかないません。面白いですよね」と話しておられました。

会員投稿

書庫に改装した六畳間を、もとの和室にかえそうと雑書類を整理したら、啄木、賢治さん、忠臣蔵がそれぞれダンボール箱いっぱいになりました。賢治さんの本の表題を見てもまるで記憶にありません。本で読む賢治さんではなく、私の賢治さんは、賢治さんとお付き合いをしているという実感的賢治さん、それが私の賢治さんでした。

『度十公園林』天使の愚かさ

劇作家・演出家 上野 火山

遠い日の記憶である。

少年の頃、いつも市営のテニスコートの金網の所にぼんやり佇んでいる人がいたのを覚えていた。彼が知恵遅れだというのは周囲の暗黙の了解だったようだ。誰一人彼を怖がる者もなく、特に馬鹿にするでもなく、ごく普通に一緒に暮らしていた。春、桜並木を通って学校に行

くときも、夏、テニスコートの向こうにあるプールに行くときも、秋、堤防で野球をするときも、冬、雪に埋もれたテニスコートで雪合戦をするときも、彼はいつもそこにいた。ちよつと優しげでちよつと哀しげな彼の眼差しを僕は忘れることができない。彼は、僕にとつて一人の度十だった。

『度十公園林』という作品に出会ったのは、そんな小学生の頃の教科書だったと思う。不思議なことに、今発行されている検定済みのどの教科書にも度十公園林が載っていない。それはいつたい何故なのだろうか。

小学生の僕の胸をあんなに締め付けた度十公園林という小さな作品。その中で主人公の度十は、まぎれもない知恵遅れの少年であった。知恵遅れというこの表現すら今は差別用語になつてしまふ、そんな時代を僕らは生きていくことに愕然とする。人はいつたいたいづから愚かさから学ばなくなつたのだろうか。人はいつたからあの天使の眼差しを忘れてしまったのだろうか。

賢治の描く度十の愚かさは軽蔑すべき哀れなものでは決していない。むしろ「天使の愚かさ」そのものなのだ。それは気高く美しい。そしてなによりも、この物語はまともなふりをした意

地の悪い利口さに対する、愚かさの勝利を描いているのだ。

五十年代のアメリカ映画「エデンの東」の中にジェームズ・ディーン演じるキャルがまるで度十そっくりに畑に列をなした木の苗を踊りながら眺める場面がある。その場面を見ながら、僕はディーンに度十の姿を重ねて見ていた。誰はばかることのない喜びを僕は見ていた。

天使はこの地上で生きていることが嬉しくてならないのだ。踊り謳いハハハ言うのだ。度十のハハハ笑う姿を馬鹿にする人間が出てくるが、殴られても蹴られても度十はひたすらハハハ笑っている。哀しくても嬉しくても度十はハハハなのだ。

やがて一緒に遊んだ子供が大人になって、度十公園林を見てあの日のことを思い出す。天使のように愚かだった度十の瞳の中の優しさと悲しみを、人は大人になって思い出す。そして、無名の人、度十によって植えられた杉林は誰に恥じることもない大きく立派な公園林に育つていった。

こんなに哀しく美しい物語を僕は他に知らない。賢治の紡ぎ出す愚かさを主題とする物語に僕は特に心惹かれるのだ。それは愚かなる人間は社会の

「お荷物」と考える常識に対し、愚かさと共に生きることを選んだ賢治のアンチテーゼが垣間見えるからかもしれない。いやむしろ人間の本质が愚かさそのものだと思破した賢治に惹かれるからかもしれない。

僕は「やまなし」のクラムボンはボンクラのアナグラムだと考えている。愚かであること、ボンクラであることはこの世では生きづらい。けれど、僕らの精神の歪みを映し出す鏡こそ、このボンクラの自己認識であり、天使の愚かさなのだと思う。

教科書に載らなくなったのは、現在という時代がもはや「天使の愚かさ」を重要な価値のひとつと認めることができなくなり、利益と利口さばかりに価値がおかれてしまっているからかもしれない。

愚かさはこの世界を生きる限り常に僕らと共にある。愚かさは無用で無視した方がいい唾棄すべきものでは決していない。僕たちは今、少々利口になりすぎてはいないだろうか。

その利口さ故に記憶喪失に陥っている。幼い日に見た様々な愚かさの風景を、何事もなかったかのように水に流している。今、賢治を読むことは、自己の記憶喪失に対する贖罪の意味もあるのだと僕は思う。

2010年
12月11日

第4回宮澤賢治学生短歌大会報告

盛岡大学学長 望月善次



岡田幸助代表より賞状を受け取る
金澤耕太郎君（本宮小6年）

4回宮澤賢治学生短歌大会は、昨年に引き続き「宮澤賢治記念短歌会」が主宰した。

募集期間が短いこともあったが、900名を超える応募があった。選者は、仙台市在住の歌人佐藤通雅氏と洋野町在住の歌人文屋亮氏と筆者（望月善次）とで行った（なお、宮澤賢治記念短歌会のメンバーにも選

をお願いして、入賞者を決定する資料とさせてもらった）。

表彰式は、12月11日（土）午前10時から、百年記念館で、宮澤賢治記念短歌会メンバーの準備・進行のもとに行った（事前連絡が徹底せず、出席者が少なかったのは残念であったが）。

岡田幸助代表の挨拶の後に、賞状・賞品の授与、筆者による講評があり、最優秀賞に輝いた金澤耕太郎君（本宮小6年）、学校賞に輝いた大迫小の畠山奈子先生から挨拶があった。

入賞作品と贈った賞状文の骨格は以下の通り。

最優秀賞

658 丁丁丁丁賢治が倒れて現れて不気味に囲みあざ笑ひ囲む

〔本宮小6年、金澤耕太郎〕

★「丁丁丁丁」は、宮澤賢治の作品の中でも、その激しさ、深さで注目されている「疾中」の一編です。初句の「丁丁丁丁」の字余りから次第に五七五七七の短歌の形の中に収めながら、原作の持つ迫力を見事に纏めあげましたね。

優秀賞

166 たいへんだ でんしんばしらが うごいてる 月よのひみつ よるだけのひみつ〔附属小1年、細田真〕

★「でんしんばしらが動くなんて本当に「たいへん」なことですね。第四句と結びの「月よのひみつ よるだけのひみつ」

の繰り返しを生かしたまとめ方も見事でした。

663 六年間演じ続けて気がついた自然を愛する賢治の心〔南城小6年、佐藤藍〕

★長く続けると見えてくるものがありますね。「六年間演じ続けて気がつく」ことは羅須地人協会の地元でもある南城小学校の特典かも知れませんね。

538 ゴーゴーと着陸旅客機だすような音でむかえる大空の滝

〔花巻小4年、佐々木健瑠〕

★「大空の滝」の迫力をどう表現するか、「着陸旅客機だすような音」と言われてみると、もう他の音はないようにも思えるから不思議ですね。

327 たべたくて どんどんどアを あけるけど どんどんたべられそうになつてく

〔紫波第三中二年、菊池彰胤〕

★賢治独特のオノマトペ「かぶかぶ」を生かしながら、「食物連鎖」や「補足連鎖」に通じるところを「捕食関係」と手際よく纏めたところは、さすが中学生ですね。

491 ころころとどんぐりころがり目が回る回ったものはわたし

の心〔花巻小3年、齋藤愛花〕

★どんぐりも転がると目が回りますね。その「回る」ところを「心」にまで持って行ったところ

が素晴らしいですね。

★クリームを塗った（ぬらされた）紳士の顔は、みにくくゆがんで「くっしやくしゃ」でした

ね。りんかさんのお母さんのお化粧とのくらべかたが素晴らしいですね。選んだ一人は「傑作（けっさく）」だと言っていましたよ。

315 どんぐりと山ねこのえをかいてみて不しぎな世界をぼくは

感じた〔仙北小五年、山本佳輝〕

★人は世界の本质を感じる時どうしてそこへたどり着くのでしょうか。「えをかいてみて」というのは、その確かな方法の一つですね。

393 かぶかぶと水に流されどこまでも食べて食べられ捕食関係

〔紫波第三中二年、菊池彰胤〕

★賢治独特のオノマトペ「かぶかぶ」を生かしながら、「食物連鎖」や「補足連鎖」に通じるところを「捕食関係」と手際よく纏めたところは、さすが中学生ですね。

522 どんぐりと山猫がするさいばんがなんだか分かる峠の山道

〔花巻小4年、小原快成〕

★「峠」って不思議なところですね。「はつきり分かる」より「なんだか分かる」の方が何となく心に染みるように思えるところが、心の面白さでしょうね。

524 上見ればもみじの天井手を広げすまに聞こえる大空の滝

〔花巻小4年、高橋優衣〕

★「大空の滝」の凄さはどうしたら伝わるでしょうか。「もみじの天井手を広げすまに」と言われると「何かが見えるのかな」と思うのですが、そこを「聞こえる」と聴覚の問題にする。なかなか良く考えられている作品ですね。

525 山ねこがこのどんぐりの争いに困りはてたと思えないぼく

〔花巻小4年、佐藤雅成〕

★「どんぐりの争い」には「一郎」も手を焼いたのでしたね。「困りはてたと思えないぼく」に〇〇君の作品に主体的に向かう姿勢が良く出ていますね。

547 峠道トチの実カエデどんぐりがひろわられていくぼくの手の

ろが作品を面白くさせていますね。

522 どんぐりと山猫がするさいばんがなんだか分かる峠の山道

〔花巻小4年、小原快成〕

★「峠」って不思議なところですね。「はつきり分かる」より「なんだか分かる」の方が何となく心に染みるように思えるところが、心の面白さでしょうね。

524 上見ればもみじの天井手を広げすまに聞こえる大空の滝

〔花巻小4年、高橋優衣〕

★「大空の滝」の凄さはどうしたら伝わるでしょうか。「もみじの天井手を広げすまに」と言われると「何かが見えるのかな」と思うのですが、そこを「聞こえる」と聴覚の問題にする。なかなか良く考えられている作品ですね。

525 山ねこがこのどんぐりの争いに困りはてたと思えないぼく

〔花巻小4年、佐藤雅成〕

★「どんぐりの争い」には「一郎」も手を焼いたのでしたね。「困りはてたと思えないぼく」に〇〇君の作品に主体的に向かう姿勢が良く出ていますね。

547 峠道トチの実カエデどんぐりがひろわられていくぼくの手の



ひら〔花巻小4年、鈴木朔也〕
 ★「トチの実」、「カエデ」、「どんぐり」を拾う。その行為を「ひろわれていく」と表した時、作品は新しい姿を見せるのである。

576 宙（そら）の旅銀河鉄道出発だ一人一人の賢治の世界〔花巻小5年、子野日結菜〕
 ★宇宙への旅は「銀河鉄道」に乗って出かけるのですね。その旅が待っているものは「一人一人の旅」なのです。宮澤賢治を読むこともまた、そうしたことのひとつなのです。

622 生き物の命の重さ知らなくて仕返しされた哀れな紳士〔愛宕小6年、佐藤七虹〕

★「注文の多い料理店」に賢治は「都会文明と放恣な階級に対する止むに止まらない反感」だと言っていますね。その根底には「生き物の命の重さ」をどう受け取るかがあり、そこを無視する者はみな「仕返し」をされるのです。

632 宇宙って何でもないもの魅カあるほくも地球という星にいる〔福山市立鷹取中1年、中田昌伸〕
 ★「宇宙」のはてしなさと、その中の一つの星である地球。この作品においては、第三句の「魅力ある」が危うく宇宙と地球とを結んでいますね。

681 生き方が自分のことより人

のことサウイフモノニワタシモナリタイ〔本宮小6年、宇部琴音〕
 ★「雨ニモマケズ」は、漢字以外の部分は、カタカナで表されていますね。この作品も「サウイフモノニワタシモナリタイ」というカタカナ表記が効いていますね。

768 妹に最後の願いたのまれてやさしい兄は雪とりに行く〔仙北小6年、佐々木彩〕
 ★賢治の絶唱の一つである「永訣の朝」。賢治が妹のトシに頼まれてミゾレを取りに行くのでしたね。その行動をどう解釈するかは、「永訣の朝」理解に欠かせない問題点ですね。〇〇さんは「やさしい兄」と解釈したのです。

802 お母さん怒るときにはカワセミでほめるときにはやまなしのよう〔仙北小6年、近谷一真〕
 ★賢治作品「やまなし」を「お母さん」に結びつけていますね。やまなしは「五月」と「十二月」の対比でしたが、ここでは「怒るとき」と「ほめるとき」の対比ですね。

続2 イメージは そよ風だった 又三郎 過ごした時間は まるで台風〔大迫小6年、佐々

木 涼音〕
 ★「風の又三郎」に対して「イメージは そよ風」で、実際は「台風」。このコントラストが鮮やかです。「涼音」さんらしい作品に出来上がりましたね。

続16 偉いとは 人を引っ張る力量を 鼻にかけない こと だとしよう〔大迫小6年、佐々木 瑠里〕
 ★本当にその通りですね。結句「ことだとしよう」が作品の良さを味わい深くしていると受け取りましたよ。

続23 あの手がみ もういらな いって いっちゃって 山ねこ ちゃっと おこっちゃったね〔大迫小1年、たかはし ゆきと〕
 ★第三句の「いっちゃって」、結句の「おこっちゃったね」のあざやかさ。「ちゃって」、「ちゃったね」は、こういうふうにつかうんだと、かんしんしましたよ。

続24 どんぐりが もとにもどって しまったよ ああ大きいのに しとけばよかった〔大迫小1年、いとう ひろたか〕
 ★「ああ大きいのに しとけばよかった」が言えそうでなかなか言えないところですね。第三



句「しまったよ」とも、とてもよくつりあっていますね。

続28 ぼくはまだ 一ねんせい でもしってるよ みなみのつぎは きたでしよほんとは〔大迫小1年、ささき ゆう〕
 ★「わかる」ってことは年令に関係ないんですね。なるほど、なるほど「みなみのつぎは きたでしよほんとは」なんです。もうこれいじょうのことはいりませんね。「スゴイ一年生」ですね。あなたは。

学校賞
 花巻市立大迫小学校
 今回の応募に、貴校は優れた作品を寄せてくださいました。特に、一年生の粒揃いの作品群は、驚異的と言っても良いほどのものでした。ここに賞状をお

送りし、一層の御活躍をお祈りします。

最優秀賞をもらって

金澤 耕太郎

「賢治の短歌大会で最優秀賞を取った人がいます。」

と担任の日向先生が言われました。自分ではないと思っていたので、名前を呼ばれたときは、とても驚きました。クラスのみんなも、びっくりした顔をして、大きな声を出して喜んでくれました。

十月に行われた学習発表会で、六年生が「宮澤賢治の生涯」という劇を行いました。僕は、「丁丁丁丁」の場面で、賢治につきまとう死神の役をしました。

照明を暗くして、不気味に動く練習をたくさんしました。だから、賢治の短歌を作る宿題が出た時、「丁丁丁丁」をテーマに決めて書くと、スラスラ考えが出てきました。

「丁丁丁丁賢治が倒れて現れて不気味に囲みあざ笑い囲む」授賞式で、審査してくれた先生に、「すごい作品で驚いた」と言われて、自分でも信じられない気持ちになりました。

お父さん、お母さんに、「すごいね。」とほめられてうれしかったです。最優秀賞をとれた

のは、「丁丁丁丁」の練習をたくさんやったからだと思います。担任であり、学習発表会の劇の総監督だった日向先生、そして、同じ死神役だった友達にも感謝しています。

耕太郎さんおめでとう

本宮小学校副校長

新屋 敏明

宮澤賢治学生短歌大会に応募された九百句の中で、最優秀賞に輝いた金澤耕太郎さん、おめでとう。

授賞式で、学年の枠を越えて、受賞作品が選ばれたことを初めて知りました。選考に関わった多くの先生方から、受賞作品のすばらしさを褒めて頂きました。

耕太郎さんの鋭い感性によって、賢治の最後の場面が、短い句の中に見事に凝縮されていることに改めて感心させられました。

作品発表、講評の他に、授賞式では、耕太郎さんが感想を発表する場や、お母さんの厚子さんから受賞の喜びをお聞きする場を設けて頂きました。

耕太郎さん、ご家族、本宮小学校にとっても大変記念すべき一日となりましたことを関係する皆様に御礼申し上げます。

さて、本校の校訓は原敬の言

葉をいただき、「宝積」(ほうじやく)と定めています。「人に尽くして見返りを求めない」という意味ですが、一年生から六年生まで発達段階に応じて宝積活動を考え、実践しています。

その中で、六年生は、宮澤賢治の生き方から学ぶ活動を展開しました。そして、今年度の学習発表会で、「宮澤賢治の生涯」を劇化したのです。

詳細は耕太郎さんの作文に記されていますが、本校の教育活動に位置付けられた取組の中で、六年生が宮澤賢治の生涯に視点をあて、国語科との係わり

で短歌に取り組み、耕太郎さんが最優秀賞に輝いたことは、大変意義のあることと考えております。

金澤耕太郎さんの天興の才能が花開いたことを大変嬉しく思っております。更に、中学校での一層の活躍を楽しみにしております。

大迫の一年生と、賢治作品

そして短歌との出会い

花巻市立大迫小学校 教諭

畠山 奈子

平成二十二年度、大迫小学校の新入生は、明るく元気いっぱいの子どもたちと、一学期からずっと取り組んできたものが、



賞状を手にする金澤耕太郎君(本宮小6年)と畠山奈子先生(大迫小学校)

「絵本の読み聞かせ」と「詩と短歌の音読」でした。二学期に入り、これまでの取り組みを生かして何かできないかと思いい、「宮澤賢治記念短歌大会」へ応募することを決めました。

今回子どもたちに読み聞かせをした賢治作品は、『注文の多い料理店』と『よだかの星』でした。さらに、全校読書祭りの日に、ちょうど『どんぐりと山猫』の一人芝居を観ることができたので、この三作品を題材にして、短歌を作ることにしました。

短歌の音読にはずいぶん慣れた子どもたちでしたが、作るとなると、難しいというイメージを持った子どもも少なくありません。そこで、六年生の担任の先生に相談して、一・六年合同で一時間、短歌の授業をさせてい

ただくことにしました。六年生は、これまで俳句作りは何度も経験していましたが、国語で「やまなし」を学習したということで、協力していただきました。縦割り班でお世話になっている六年生の横に一年生が座り、まず、短歌とは「五七五七七」でできているのだということを学習しました。

その後、前に挙げた賢治作品に出てくる言葉をたくさん出させ、それを五音か七音にし、並べて短歌を作るという活動をしました。六年生が優しく問いかけてくれるので、一年生はうれしそうに、思ったことをどんどん伝えます。見る見るうちに、短歌ができていきました。

そこでできあがった短歌は、お話に出てきた言葉が並んだだけの、あらすじのような内容にとどまっていたため、さらに子どもたちが感じたこと、思ったことを短歌に乗せたいと思いい、別の機会に、私が一人ひとりにインタビューをすることにしました。すると、一年生らしい言葉遣いや、大人には思いつかないような感想が、次から次と飛び出しました。子どもたちが話したことをそのまま書き出しただけで、すでに短歌

になっていくものもありました。その話を聞きながら、一年



生のもつたくさんの言葉と出会い、あったかい、心地よい気分になっていました。自分の言葉が並べられた短歌ができあがると、子どもたちは驚きと喜びの表情で、いつも以上に目をきらきらさせていました。

今回、賢治の短歌作りを行ったことで、たくさんの賞をいただけたことはもちろん、子どもたちが「短歌って楽しい！」と感じ、ますます賢治と短歌を好きになることができました。私にとっても、子どもたちにとっても、大変貴重な体験となりました。このような機会を与えていただけたことに感謝し、今後ますます子どもたちとともに成長していきたいと思っています。

宮澤賢治センター入会のご案内とロゴマークの紹介

岩手大学では、賢治生誕110年の年である2006年の開学記念日（6月1日）を期して、「宮澤賢治センター」を設立いたしました。

その骨子としては、

- ①広く岩手大学における宮澤賢治の関心を集約する
- ②組織は学長裁定のNPO的組織とし、趣旨に賛同する人は誰でも加入できる
- ③設置場所は岩手大学内「百年記念館」とし、日常の連絡先は岩手大学地域連携推進センター（TEL 019-621-6672、FAX 019-621-6493、Eメールkenji@iwate-u.ac.jp、ホームページ <http://kenji.cg.cis.iwate-u.ac.jp/>）とする
- ④会費は当分徴収しない
——などです。

宮澤賢治に関心があり、広い意味で岩手大学にご縁のある方であれば、どなたでも歓迎いたします。会員の方には、「宮澤賢治センター通信」をお送りしています。

宮澤賢治センターは今年設立5周年を迎えますが、ロゴマークが完成いたしましたので、紹介いたします。作成者はアートフォーラムいわての中島香緒里さんです。宮澤賢治の代表作「雨ニモマケズ」をスタンプに見立て、改めて賢治の想いを多くの人々の心に刻み込みたい。そういう想いで作成したそうです。

宮澤賢治センターでは今後、このロゴマークをスタンドや印刷物などに積極的に活用していく予定です。



宮澤賢治の代表作「雨ニモマケズ」をスタンプに見立て、改めて賢治の想いを多くの人々の心に刻み込む。

作成者：アートフォーラムいわて
中島香緒里



トピックス

宮沢賢治の思想に沿ったりんごが発売

自然との共生をイメージした「いざりのりんご」

岩手大学 大学教育総合センター 佐藤 竜一

一月十五日、宮沢賢治の共生思想をモチーフにしたりんごがイオン盛岡南ショッピングセンター（盛岡市本宮）で試験販売された（商品名「いざりのりんご」）。

岩手大学教育学部田中隆充准教授指導の下、同教育学部四年の高橋麻由子さんが銀河鉄道やクマのシールをデザインした。

りんごは盛岡市猪去（いざり）地区の農家が生産したもので、栽培途中のりんごにシールを貼り付けてシルエットを形成している。

この取り組みは岩手大学で取り組んでいる「地域課題解決プログラム」の一環で、農学部の鈴木幸一教授、地域連携推進センターの鈴木勝美客員准教授も関わっている。

デザインシールを貼り付けての販売はブランド化のための第一弾である。自然との共生は賢治の中心思想であり、「いざりのりんご」についているタグも

廃棄されたりんごを使って制作した。

賢治と猪去地区との関係は深い。私は昨年（二〇一〇年六月一六日）、猪去地区のりんご農家の皆さんを前に「宮沢賢治の思想と猪去りんごのブランド化」と題して講演した。

その日には上猪去・箱ヶ森登山道入口傍の歌碑を見ることができた。

碑文はこう記されている。

しろがねの

雲流れ行きたそがれを

箱ヶ森らは黒くたゞずむ

大正六年頃、賢治は箱ヶ森（八六三・五メートル）に登ったという。山頂からは盛岡市街や姫神山など、賢治が歩いたゆかりの風景が一望できるので、この歌碑は登山道が整備されたのを記念して一九九六年一月三〇日に建立された。

猪去地区は岩手の西洋音楽の

草分けとして名高い太田カルテット発祥の地でもある。やはり、大正六年六月頃。盛岡弦楽研究会の中心メンバーだった梅村保が盛岡市郊外の太田村に移り、地元の館沢繁次郎、佐々木休次郎、赤沢長五郎と組んで、弦楽合奏の合奏団「太田カルテット」を作った。

アマチュアの合奏団だったが、東京からプロの演奏家を呼ぶなどして岩手の洋楽発展に貢献した。

宮沢清六の述懐によれば、賢治は大正七（一九一八）年頃、初めて洋楽のレコードに接した。ベートーベンの「第四交響曲」を聴き、「蓄音機のラッパの中に頭を突っ込むようにしながら、旋律の流れに連れて首を動かしたり手を振ったり、踊りはねたりした」という。

ドビュッシーの「月光」、ベートーベンの「運命」がお気に入りだった賢治は、萩原朔太郎の影響で、音楽を聴きながら詩を書くこともあった。

一九二一年一二月、賢治は稗貫郡立稗貫農学校（後に岩手県立花巻農学校に昇格）教諭となった。

賢治は稗貫郡立稗貫農学校（後に岩手県立花巻農学校に昇格）教諭となった。

その頃知り合ったのが、花巻高等女学校で音楽を教えていた藤原嘉藤治だった。

嘉藤治は藤原草郎というペンネームで詩を作っており、二人には共通の話題があった。たちまち、意気投合した。

嘉藤治は城南小学校に勤務していた頃、太田カルテットのメンバーである原彬からバイオリンやチェロを習った。県の学務課に勤め音楽教育充実のため尽力していた原は嘉藤治の才能を見抜き、花巻高等女学校の音楽教師に抜擢した。

なお、原彬は原敬の甥で、大正七（一九一八）年九月二十九日、原敬は内閣総理大臣に就任している（大正一一年一月四日、

暗殺され死去）。原彬が県の人事で力を持った背後には、原敬の存在があったかもしれない。

もし、原彬の抜擢がなければ賢治と嘉藤治との出会いはなかったかもしれない。賢治が嘉藤治から太田カルテットの動向を聞く機会も失われたかもしれない。

賢治は音楽教師である嘉藤治に刺激され、教諭時代チェロ（セロ）やオルガンの独習を開始。演劇に歌曲を採り入れたほか、「星めぐりの歌」の作曲など音楽活動に力を入れた。太田カルテットの存在は、そういった活動に刺激を与えたはずである。

宮沢賢治の思想に沿った日本で初めての「りんご」の発表&販売



自然のつく出すものは人の手はつくり出せないような美しさがあります。りんごをじっと見ていると、星が閃き出しはらめられた瞬間の夜のように見えだきました。

学生が一年かけて農家の方々と共に育て一緒に売ります。

2011年1月15日・11時 イオン盛岡南ショッピングセンター いわて活菜横丁結いの市

問合せ先 岩手大学地域連携推進センター 共同研究員 及川 隆 TEL 019-622-8889 FAX 019-622-9181 e-mail toikawa@iwate-u.ac.jp

宣伝用チラシ

読者からの手紙

くまがや賢治の会代表 五十嵐幸男

岡田幸助先生

冠省 師走いよいよ今年も残り少なくなりご繁忙の日々をお過ごしのことと思います。

今度、学内賢治センター通信10号をおとどけ下さりましてご親切厚く御礼申し上げます。

先刻「くまがや賢治の会」事務局長の遠田様より大学内に「宮澤賢治センター」がありご

活躍のこと拝聴して居りました。

今後全国各地にある賢治の会の中堅として益々活躍下さることご期待しています。

私共も賢治学生時代（二年先）即ち大正五年秩父地方の地質調査の途中熊谷寺に立寄り

「熊谷の蓮生坊がたてし碑の

旅はるばると 泪あふれぬ」
「武威の国 熊谷宿に歌座の淡々ひかりぬ九月の二日」を
残して居り、平成八年四月四日誕生百周年記念に世界展を八木橋パート内ホールで開催。

実弟の清六氏と孫和樹さん（熊谷にある立正大学学生）の二名も参加し交流を深め、昭和八年三月二日創立総会開催以来毎年九月の第一日曜日に「賢治祭」を開催。月例の研修会を開催して居り、「鎌倉賢治の会」との交流も進めて居ります。幸

いに埼玉大学教授萩原昌好先生（花巻の宮澤賢治学会四代の代表理事経験者）が居られ、ご指導を受ける機会もあります。

一二月五日開催の研修会高農林学卒の小川達雄氏と講師として実施しましたので、関係のミズク通信45号同封致します。

おひまの折ご笑覧下さい。

平成二二年一二月九日

二伸 平成九年歌碑（前記二首刻み）を八木橋パート前面の地に建立しました。

編集後記

▽老若男女に愛される宮澤賢治にふさわしく、今回の号は幅広い年齢層から原稿をいただきました。どうもありがとうございます。

元より宮澤賢治センターは学術的に賢治を研究するというよりもむしろ、広く賢治に対する興味を分かち合うことを基本にしています。

この姿勢は今後とも変わることはありません。前『街 もりおか』編集長の齋藤五郎さんからはその点を踏まえた原稿を執筆してもらいました。また、岡村民夫さんからは、賢治がなじんだ大沢温泉について寄稿してもらいました。

東北・関東の沿岸部を中心に大地震が起こっていますが、賢治のことを想起せずにはいられません。

賢治が生まれたのは1896（明治29）年8月27日のことですが、その4日後に大地震に見舞われたそうです。また、亡くなる半年ほど前の、1933（昭和8）年3月3日には三陸沿岸を津波が襲い、甚大な被害をもたらしました。

私事になりますが、中学時代までを陸前高田で過ごした私の、親戚や友人が数多く犠牲になりました。避難所となっていた母校・第一中学校の校舎がテレビ画面に現れると、とてもつらい気持ちになります。

宮澤賢治センターはもうすぐ、設立5周年を迎えます。記念行事の開催なども予定しています。今度ともどうぞよろしくお願いたします。

（佐藤竜一 記）

宮澤賢治センター通信

○発行

〒0201855

盛岡市上田四丁目三番五号

電話 〇九六二二六六七二

FAX 〇九六二二六四九三

E-mail:kenji@iwate-u.ac.jp

HP: http://kenji.gci.iwate-u.ac.jp/

宮澤賢治センター(石手大学内)

発行責任者 岡田幸助

○印刷 杜陵高速印刷株式会社

お見舞いありがとうございます
ごございました

宮澤賢治センター代表

岡田幸助

この度の東北地方太平洋沖地震に対し、倉吉市の波田野頌二郎氏（緑石研究会事務局長）、保阪庸夫氏のほか多数の方々からお見舞いと激励の連絡をいただきました。

この場を借りまして感謝申し上げます。

宮澤賢治センター今後の定例研究会の予定

- 4月21日(木) 話題提供者：松本隆氏（元矢巾町収入役）
話 題：銀河鉄道の舞台は矢巾・南昌山
- 5月26日(木) 話題提供者：牛崎敏哉氏（宮沢賢治記念館副館長）
話 題：「星めぐりの歌」の周辺
- 6月24日(金) 話題提供者：森三紗氏（宮沢賢治研究家）
話 題：父森莊巳池のこと

この会は5周年記念行事で、望月善次氏（盛岡大学学長）との対談後、記念パーティが予定されています。また同時に賢治の学んだ鉱石の記念展示会を計画しています。

*行事の詳細については、宮澤賢治センターにお問い合わせ下さい。